

# ちゅうせい く たてもの さぐ 中世の暮らしを建物から探ろう

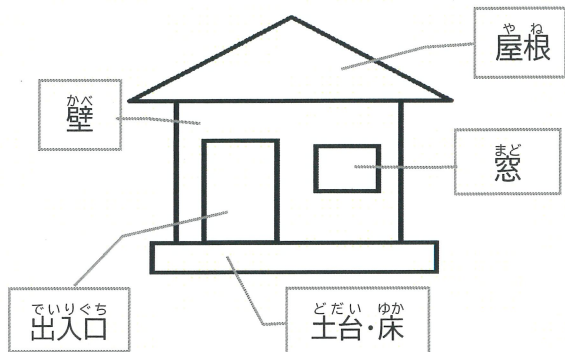
次のポイントに注目して、農家・三歳市・武士の館などの建物をくらべよう

- どんな素材を使っているの？
- どんな形？大きさ？いくつある？
- どこで寝たり、料理をするのだろうか？
- 園内にある弥生時代の「たて穴式住居」と比べてみよう

## 予習しておこう



- 中世とはいつのこと？
- この時代に活躍していた人は誰？
- 「半農半士」とはなに？



## 窓は何のためにあるの？



<建物に関するキーワード>

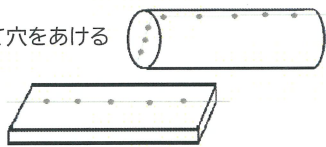
ねいし 根石	いたしき 板敷	どま 土間
くりや 厨	ざしき 座敷	どせ 土座
なんど 納戸	いたば 板葺き	かやぶ 茅葺き
しんでんづく 神殿造り	しよいんづく 書院造り	ぶけづくり 武家造り



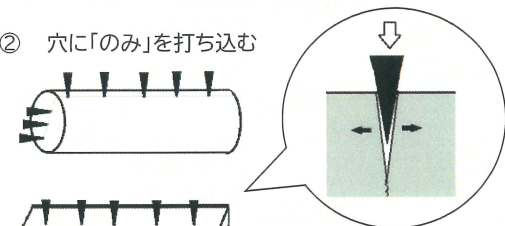
## うちわほう 打割り法で木材を割る

大型木材の縦方向の切断には、ヒノキやスギなどの真っ直ぐな巨木を鑿(のみ)や楔(くさび)で割り取る方法で木材を作っていた。

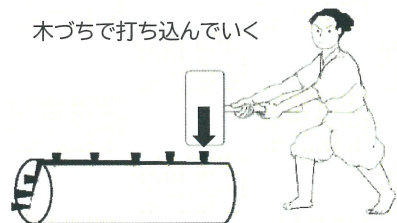
① 木目にそって穴をあける



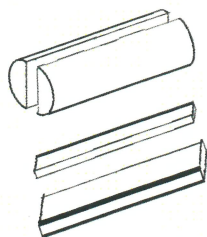
② 穴に「のみ」を打ち込む



③ 割れ目の幅に合わせて「くさび」をさし込み木づちで打ち込んでいく

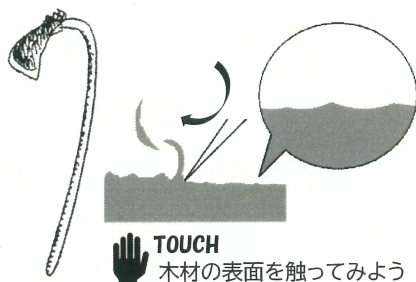


④ 割れた！



ちょうなで木材の表面を削って滑らかにする

実物を見てみよう

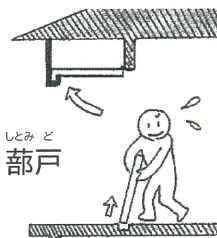


## 園内の建物の扉を見比べてみよう

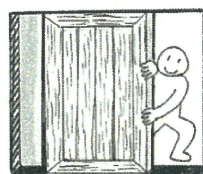
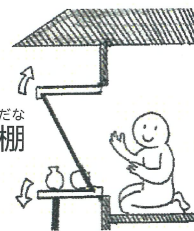
どんな特徴があるのだろうか？



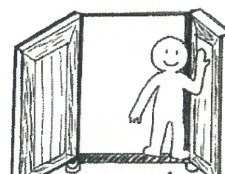
溝に板をはめ込むだけのタイプ



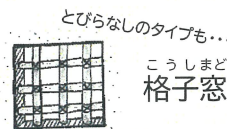
つまど 妻戸



やりど 舞良戸



つまど 妻戸



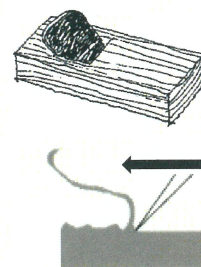
はじとみ 半部

中世後期に  
新しい工具が出現！

## おが たてび のこ 大鋸 (縦挽き鋸)



## だい 台かんな

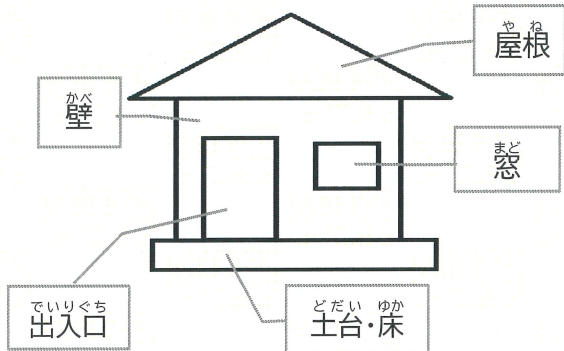


打割製材に適した木材が減ってくると木目や節の有無に関わらず挽き切ることができる二人挽きの「大鋸(おが)」が中国から輸入された  
新しい道具のおかげで板材の加工がしやすくなり、天井や壁にも多くの板を使うようになった。

# ちゅうせい く たてもの さぐ 中世の暮らしを建物から探ろう

次のポイントに注目して、農家・三歳市・武士の館などの建物をくらべよう

- どんな素材を使っているの？ 土・竹・木・わら・石など
- どんな形？大きさ？いくつある？
- どこで寝たり、料理をするのだろう？
- 園内にある弥生時代の「たて穴式住居」と比べてみよう



## 予習しておこう



- 中世とはいつのこと？  
鎌倉時代から室町時代(1185-1573)  
800-450 年前
- この時代に活躍していた人は誰？  
源頼朝、足利尊氏、雪舟 等
- 「半農半士」とはなに？  
戦争のない時は田畑を耕し年貢を納め、  
農業を行うが戦時には兵士として戦う

## 窓は何のためにあるの？

- 光を取り込む
- 風を通す
- 景色を楽しむ
- 丸見えにならないように隠す
- 光を遮る など



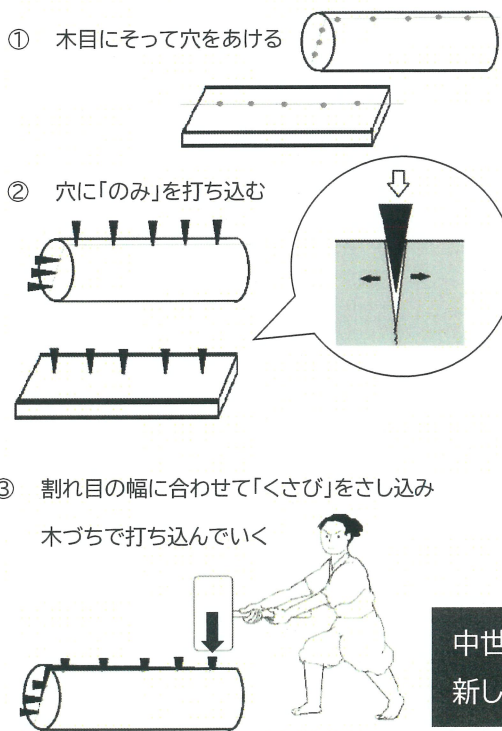
## <建物に関するキーワード>

ねいし 根石	いたしき 板敷	どま 土間
くりや 厨	ざしき 座敷	どせき 土座
なんど 納戸	いたば 板葺き	かやぶ 茅葺き
しんでんづく 神殿造り	しよいんづく 書院造り	ぶげんづく 武家造り



## うちわほう 打割り法で木材を割る

大型木材の縦方向の切断には、ヒノキやスギなどの真っ直ぐな巨木を鑿(のみ)や楔(くさび)で割り取る方法で木材を作っていた。



## 園内の建物の扉を見比べてみよう

どんな特徴があるのだろう？



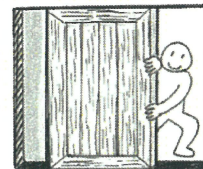
溝に板をはめ込むだけのタイプ  
引き戸  
開け閉めが省スペースでワンステップで閉閉



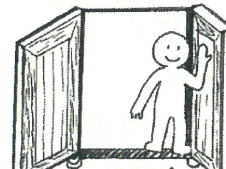
板戸の表裏に格子の組子がついた建具  
開く際は上方向へ跳ね上げて、吊り金具で引っ掛けて固定  
開放的ではあるものの、開け閉めがかなりの重労働



商品を並べてディスプレイベースとして活用



やりど まいらど  
遣戸(舞良戸)



つまど  
妻戸



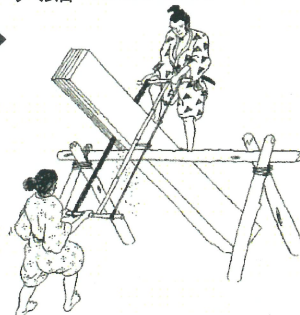
とびらなしのタイプも...  
こうしまど  
格子窓  
はしとみ  
半蔀

中世後期に  
新しい工具が出現！

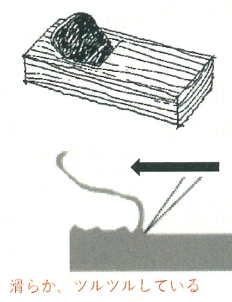
## ちょうなで木材の表面を削って滑らかにする



## おが たてび の こ 大鋸 (縦挽き鋸)



## だい 台かん



打割製材に適した木材が減ってくると木目や節の有無に関わらず挽き切ることができる二人挽きの「大鋸(おが)」が中国から輸入された  
新しい道具のおかげで板材の加工がしやすくなり、天井や壁にも多くの板を使うようになった。